

高美小プランシート

場所: 6年教室

1. 「はてなをもとめて、自ら学びに向かう力の育成」に関わって

○ふき出し

- ・既習事項と関係づけたり、解き方の道筋を立てたりして、自分で問い（「なぜ」「どのように」など）をつくる。（問いを生む3）

○「めあてレベル」の提示

- ・自分に合ったゴールを設定できるようめあてレベルを示す。（めあて3）

○単元の見通し

- ・単元の初めに、2年生との交流で使うシャボン玉液作りをするために算数科で「比とその利用」を学ぶことを確かめ、目的意識を持たせる。（見通す2）

○マスターロードの活用

- ・算数用語の定着を図る。
- ・課題解決や目標達成のために必要な時間数や学習内容を知り、学習の見通しをもたせる。（見通す2）

○本時の見通し

- ・課題解決や目標達成に向けて、1時間の学習の見通しをもつことができるよう学習の流れを示す。（見通す2）

○「だれと学ぶ？」カードの活用（実行する3）

- ・目的に合わせて友だちと考えを交流するように促す。

○ふりかえりの型の提示

- ・ふりかえりを通して、自己評価の結果を具体的な活動と結びつけて説明したり、次に取り組むべきことを具体的に設定したりするために、R80を活用した書き方の型を示す。（振り返る3・4）

2. 単元名

2年生とシャボン玉で遊ぼう～比をつかってシャボン液をつくろう～（総合的な学習の時間・算数）※本時は算数

3. 単元の目標

- ・比について、その表し方や比の値、等しい比の意味を理解することができる。
- ・数量の関係に着目し、比と一方の量からもう一方の量を求めたり、全体の量をきまった比に分けたりする方法を考えることができる。
- ・比に進んで関わり、ふりかえりを通して比を用いて数量の関係を表すことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。

4. 単元の評価規準

- ・比の意味と表し方を理解し、比を用いて表したり、等しい比を見つけて比を簡単にしたりしている。【知識・技能】
- ・数量の関係に着目し、比と一方の量からもう一方の量を求めたり、全体の量をきまった比に分けたりする方法を考えている。【思考・判断・表現】
- ・比に進んで関わり、ふりかえりを通して比を用いて数量の関係を表すことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

5. 単元計画（全8時間）

総合的な 学習	2年生との交流で使うシャボン玉液を作ることを知る。 シャボン玉液の作り方を大まかに調べ、比で表された数について知る。 シャボン玉液作りをするために、算数科で「比とその利用」を学ぶことを確かめる。
------------	---



第1時	単元の課題をつかみ、比の意味とその表し方を理解する。
第2時	比の値や比が等しいことの意味を理解し、比の値を求めたり、比が等しいかどうかを調べたりする。
第3時	等しい比の性質について理解し、それを用いて比を簡単にする。
第4時	小数や分数を使って比を表し、それを簡単な整数の比にする。
第5時	練習問題に取り組み、学習内容を身に付ける。
第6時 (本時1)	比と一方の値から、もう一方の値を求める。
第7時 (本時2)	ある量をきまった比に分けたときのそれぞれの量を求める。
第8時	練習問題に取り組み、学習内容の理解を確認する。



総合的な 学習	「比とその利用」で学習したことを使って、2年生との交流で使うシャボン玉液を作る。
------------	--

6. 本時1の目標

数量の関係に着目し、比と一方の量からもう一方の量を求める方法を考えることができる。【思考・判断・表現】

7. 本時1の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5分	1. 前時までの学習をふりかえる。 2. ①の問題に出会い、問題文から分かることや、活かせるような既習事項をふきだしに書く。 3. ふきだしをもとに、全体のめあてを立て、それぞれのめあてレベルを決める。	・いかせそうな既習事項が思い浮かばない場合は、これまでのノートをふりかえるように促す。	
	等しい比の性質を使って、一方の量からもう一方の量を求めよう。		
10分	4. 1人で考える。 5. 友だちと交流する。	・1人で考えるのが難しい児童には、ヒントカードを配る。 ・「だれと学ぶ？」カードを掲示し、目的に合わせて友だちと考えを交流するように促す。	
10分	6. 全体で交流する。	・複数の考え方を比較できるように板書する。	
10分	7. ②の問題に取り組み、砂糖の量から小麦粉の量を求める場合を考える。 8. まとめる。	・どの考え方も、等しい比の性質を使っていることを抑える。	比と一方の量からもう一方の量を求める方法を図や式に表して考えている。【思考・判断・表現】（ノート・発言）
5分	9. 練習する。		
5分	10. ふりかえる。	・ふりかえりの書き方を掲示する。	

8. 本時1の評価基準（ルーブリック）

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する状況への支援
与えられた比をもとに、2つの量の関係を図や式に表して考え、求めた数量が正しいかどうかを等しい比の性質を使って説明している。	与えられた比をもとに、2つの量の関係を図や式に表して考えている。	線分図や、等しい比の性質を使ったヒントカードを配る。

9. 本時2の目標

数量の関係に着目し、全体の量をきまった比に分ける方法を考えることができる。【思考・判断・表現】

10. 本時2の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
10分	1. 前時までの学習をふりかえる。 2. ①の問題に出会い、問題文から分かることや、活かせそうな既習事項をふきだしに書く。 3. ふきだしをもとに、全体のめあてを立て、それぞれのめあてレベルを決める。	・前時は一方の量と比が分かっていたのに対して、本時では全体の長さとの比が分かっていることを押さえる。 ・問題の場面がイメージしにくい場合は、実際にリボンをおよそ3:2になるように切り分け、答えの見当をつけられるようにする。	
	全体を決まった比に分けるしかたを考えよう。		
10分	4. 1人で考える。 5. 友だちと交流する。	・1人で考えるのが難しい児童には、ヒントカードを配る。 ・「だれと学ぶ？」カードを掲示し、目的に合わせて友だちと考えを交流するように促す。	与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて分けたときの量を求めている。 【思考・判断・表現】 (ノート・発言)
10分	6. 全体で交流する。	・線分図を使って、リボン全体の長さが5にあたることを確認する。	
5分	7. まとめる	・全体の大きさにあたる割合を使えば、決まった比に分けられることをおさえる。	
5分	8. 練習する。	・立式できない児童には、まず線分図をかくて考えるように促す。	
5分	9. ふりかえる。	・ふりかえりの書き方を掲示する。	

11. 本時2の評価基準(ルーブリック)

十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する状況への支援
与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて分けたときの量を求め、求めた数量が正しいかどうかを図や等しい比の性質を使って説明している。	与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて分けたときの量を求めている。	線分図を使ったヒントカードを配る。